

令和7年度 山形県慈丘園 地域連携推進会議

日時：令和7年12月11日（木）午前10時～午前11時半

場所：かるむの里体育館

- 1 開会
- 2 園長あいさつ
- 3 構成員・施設職員の紹介
- 4 協議
 - (1) 施設・地域の連携
 - (2) サービスの透明性・質の確保
 - (3) 利用者の権利擁護
- 5 意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

令和7年度 山形県慈丘園 地域連携推進会議 出席者

<構成員>

	所属・職名等
1	利用者代表
2	利用者代表
3	利用者家族代表
4	地域関係者
5	福祉関係者

<事業所>

1	園長
2	副園長
3	サービス管理責任者
4	サービス管理責任者

第1回 山形県慈丘園 地域連携推進会議 会議録

日 時	令和7年12月11日(木) 10:00~11:30
場 所	かるむの里体育館
参 加 者	別紙名簿参照
<p>1 開会</p> <p>2 園長あいさつ 会議出席のお礼を伝える。 「慈丘園地域連携推進会議設置要綱」及び「地域連携推進会議の概要」より、本会議開催の趣旨を説明した。また、施設を知っていただく機会とすることと、サービス向上のため忌憚のない意見をもらえるよう依頼する。</p> <p>3 構成員・施設職員の紹介 出席者が自己紹介を行う。</p> <p>4 協議 (1) 施設・地域の連携(副園長) ① 利用者の障がい状況等について ・山形県慈丘園概要(令和7年12月1日現在)及び各施設・事業所における利用状況をもとに説明した。 ・入所事業については、11月は入院者が2名おり、退所者はいなかった。12月は、1日入所が1名、入院者が1名、退所者はいなかった。施設内では引き続き感染症対策を継続するとともに、日中活動のほか、月1回のお菓子販売(アイス、お菓子等)、週1回の移動販売(とくし丸)を利用し楽しんでいることを説明した。 ・生活介護は、感染症対策により入所利用者と慈丘園共同生活事業所利用者とに分かれて支援を行い、グループホーム利用者は施設で送迎を行っていることを説明した。 ・短期入所は、長期での利用者が2名おり、そのほかは定期的な利用者となっているが、月により利用率の変動がみられている。日中は他の事業所を利用している方が多い。</p>	

② 施設・地域行事について

- ・施設行事は事業計画を基に実施している。地域とのかかわりについては、大山犬祭りの前夜祭に上天保恵町の子ども神輿のルートに入れてもらい、見学を行った。年2回の広報紙発行時は、大山管内の交番、コミュニティセンターなどに利用者と訪問し、手渡ししている。また、きらやか銀行大山支店内に利用者の作品を展示させてもらい、利用者の意欲向上につながっている。
- ・近隣の方より、苦情として「利用者の声が聞こえて怖い。」「居室の窓から裸の利用者が見える。」と話があった。換気の必要性からも声に関しての改善策はなかったが、裸になる利用者の居室を外から見えにくいお部屋に移動してもらおう等対応した。その後苦情はなかった。

(2) サービスの透明性・質の確保（副園長）

① 自己評価、第三者評価について

- ・毎月実施する運営会議、リスク管理委員会、虐待防止委員会、その他各種委員会を開催し、課題への対応及び情報の共有化に努めている。また、個別支援計画に係るカンファレンス会議には本人及び家族の出席を基本とし、本人と家族の意見を反映させている。また、出席できない家族の意見等は電話で聞き取りを行っている。利用者1名に在宅復帰希望者がおり、退所後のサービス利用について話し合いを行っている。
- ・自己評価について、全職員が「サービス評価自己点検票」をもとに点検している。第三者評価委員を選定し評価を年1回実施するとともに、診断内容等は改善達成期間を設定し取り組んでいる。

② 利用者の日常生活の様子について

- ・利用者の日常生活については、事業計画及び個別支援計画にもとづき支援を行い、生活介護のサービス内容について説明した。(サービス管理責任者)

③ 経営状況について

- ・経営状況について、各事業の目標利用率を設定し達成に向けて努力するとともに、運営会議において事業費の収支状況の精査及び情報の共有化を図り、消耗品等は可能な範囲で節減に努めている。

④ BCP（業務継続計画）の策定状況について

- ・業務継続計画の策定状況は、感染症や自然災害時の計画を策定し研修及び訓練を実施している。災害による避難場所は鶴岡第五中であるが、利用者の特性から一般住民の方と一緒に空間で過ごすことは容易でないと判断し、訓練時は屋上に垂直避難する訓練を行った。

(4) 利用者の権利擁護（副園長）

① 虐待防止について

- ・年度初めに全職員が「権利に関する誓約書」に署名し、掲示している。虐待防止については、委員会を課題の有無にかかわらず毎月開催している。案件が生じた際は、職員と個人面談及び支援会議を行い、原因究明と改善に努めている。
- ・月1回、第三者による相談会を実施しており、利用者が話された内容を共有し、改善が必要な案件は虐待防止委員会等で検証し、改善に向けた取組を行っている。

② ヒヤリハット・事故報告について

- ・リスク管理委員会を毎月開催し、検証及び改善策を検討している。ヒヤリハットは施設内部で検証し、事故報告は県へ報告している。

③ 支援者の様子について

- ・組織として各部門及び嘱託医、関係機関と連携し支援している。入所利用者、短期入所の利用者それぞれに特性があり、職員の良かれと思った支援が不穏の要因となることもあるため、「特性の理解」「支援の統一」が重要であり、課題でもある。

④ 実習生の受入について

- ・酒田特別支援学校、鶴岡養護学校の生徒の施設実習（10日間）
- ・羽陽学園短期大学（10日間）
- ・社会福祉士資格取得施設実習

4 意見交換

利用者家族代表

- ・個性のある利用者への対応はマンパワーなくしては成立しない。予算の厳しい中で支援されていると感じる。それを踏まえて、リスク管理

に重点を置いてもらいたい。また、家族会の立場として、信頼関係が重要であり、家族会もできる限りのバックアップをしていきたい。

地域関係者

- ・施設的环境は充実している。利用者の薬剤管理の重責を理解できたと同時に、事故につながらないように対応していただきたい。施設開所時は夏祭り等があったが、感染症対策により交流の機会がなくなった。今後機会があると、施設の理解も深まる。また、施設敷地に複数街灯があり、安心して登下校ができるとともに、地域の防犯対策にもつながっている。災害時の一次避難所として協力いただいていることにも感謝している。

福祉関係者

- ・利用者の意欲につながるよう、更には事故につながらないように工夫され、作品の展示をされている。デイルームに利用者さんの写真が掲示されていましたが、行事ごとに掲示するなど、利用者が楽しめるよう更に工夫してもらいたい。入浴機器の充実で、利用者はもとより、支援者の労働環境にも配慮されている。

利用者代表

- ・生活の中で役割があり、がんばっている。
- ・入所後は健康に生活できている。

5 その他

6 閉会